

# 太陽光パネルをリサイクル

## 板ガラスの原料に再利用

### リサイクルテック・ジャパン

リサイクルテック・ジャパン(名古屋市、高取美樹社長、☎052・3505・9888)は、今春から太陽光パネルのリサイクル事業を始めた。パネルを粉碎してから、ガラスとセルに分ける。ガラスはカレットとして、ガラスメーカーに売却、板ガラスの原料として利用される。セルからは、銀を金属製錬所で抽出する。

### セルから銀も抽出



太陽光パネルのリサイクルライン



分離したガラス(左)とセル



処理工程は、まず粗破砕し、次工程の粉碎機にかかる負荷を軽減する。粉碎機は、2〜5ミリの粒度にする。粗破砕機は、すりつぶす。粉砕機では1〜2ミリの粒度にする。すりつぶしながら、ガラスからシリコン膜と銀を剥離する。剥離したガラスとシリコンを分離する。100%近い高精度で分離でき、異物の混入がほとんどないため、回収したガラスは再び網入り板ガラスの材料として利用できる。また、ガラスとセルの両方を有償で売却できる。

分離させる仕組みで、同時にガラスの角も丸く処理される。振動ふるいにかけてから、風力と色彩選別でガラスとシリコンを分離する。100%近い高精度で分離でき、異物の混入がほとんどないため、回収したガラスは再び網入り板ガラスの材料として利用できる。また、ガラスとセルの両方を有償で売却できる。

ため、処理コストを抑えられる。今月1日からスタートした再生可能エネルギー全量買い取り制度により、古くなった太陽光パネルの入れ替えによる使用済みパネルや、パネルの生産増に伴ったロス品の発生も急増すると見られている。

同社では、太陽光パネルのリサイクル事業を主力の遊技機リサイクルとともに事業の二本柱として考え。現在、国内の大手メーカーから月に数十万のガラスを仕入れているが、秋ごろから大幅な増産が見込まれる。

これまで太陽光パネルは、リサイクルシステムが確立されていない状況だった。太陽光パネルのほとんどが、破碎処理を経た後、焼却され、燃え殻は最終処分場に埋め立てられている。高取社長は「グリーンエネルギー推進のために導入される太陽光がリサイクルされていない現状はおかしい。リサイクルを進めていくことが重要」と訴えている。

受け入れ増加を見込む。来年をめぐってライターの増設も検討している。

これまで太陽光パネルは、リサイクルシステムが確立されていない状況だった。太陽光パネルのほとんどが、破碎処理を経た後、焼却され、燃え殻は最終処分場に埋め立てられている。高取社長は「グリーンエネルギー推進のために導入される太陽光がリサイクルされていない現状はおかしい。リサイクルを進めていくことが重要」と訴えている。